

六ヶ所村「尾駁の牧」歴史研究会

「六ヶ所村 歴史フォーラム2014」開催 実施要項

1. 目的

当会設立以来の研究テーマである、当地が“尾駁の牧”の比定地であり、平安時代、馬の交易によって京の都とつながっていたのではないかという歴史的背景へ、より具体的且つ学術的に近づくため、村外の著名な講師陣をお招きし、その専門的な立場から意見を述べてもらい、その学術的研鑽を、後世への知的財産として蓄積することを目的として開催する。併せて、当村の薫り高い歴史文化の新たな側面を、村内外へ情報発信することを目的とする。

2. 発表の要旨

今フォーラムは昨年に引き続き、「尾駁の駒・牧」の背景に迫るべく、平安時代、名馬が権力・財力の象徴であり、特に“競馬(くらべうま)”の儀式等において、荒馬こそが名馬とされていたとする背景に、千年続いている賀茂競馬の歴史をふまえ、そこからより具体的且つ詳細に迫り、また、尾駁の牧と時の陸奥国の支配者たちとの関係に迫り、当地における名馬輩出の背景について考える。

そこで、基調講演として、「平安貴族と馬 — みる・祈る・怕れる —」という発表テーマの中で、時の権力者たちに珍重されていたという名馬の実態を、「古記録」等の文献から分析・検証する。

そして、第一番目の基調報告「千年、いきづく賀茂競馬」の発表からは、約920年間、現在に至るまで続いてきた、上賀茂神社の競馬の実態等について詳細に報告してもらい、第二番目の基調報告「尾駁の牧と陸奥国の支配者たち」の発表においては、時の陸奥国の支配者たちと尾駁の牧との関係について報告してもらう。

そして最後に、パネルディスカッションとして、テーマ「尾駁の駒・牧の背景を探る — いきづく“競馬(くらべうま)”そして、名馬の系譜 —」として、当時、京の都にて“尾駁の駒”が珍重された背景と、時代の陸奥国の支配者たちとの関係に迫り、当地に残された名馬輩出の系譜としての歴史的背景についてディスカッションする。

3. 開催日時 平成26年 8月 24日(日) 午前9時30分～午後15時20分まで
4. 会場 六ヶ所村文化交流プラザ・スワニー「大ホール」
5. 入場料 無料
6. 主催者 六ヶ所村「尾駁の牧」歴史研究会

7. 主な日程と内容 「六ヶ所村 歴史フォーラム2014」

9:30 ~ 9:35	1. 主催者挨拶
:35 ~ :40	2. 来賓祝辞
9:40 ~ 10:00 (10:00~10:05)	3. オープニングアクト (20分) 神楽歌「其駒(そのこま)」(人長舞) 〔休憩 5分〕
10:05 ~ 11:05 (11:05~11:15)	4. 基調講演 (60分) 研究テーマ「平安貴族と馬 —みる・祈る・怕れる—」 (國學院大学講師：飯沼 清子氏) 〔休憩 10分〕
11:15 ~ 11:55 (11:55~12:55)	5. 基調報告① (40分) 報告テーマ「千年、いきづく賀茂競馬」(上賀茂神社・権禰宜：藤木 保誠氏) 〔昼食 60分〕
12:55 ~ 13:35 (13:35~14:40)	基調報告② (40分) 報告テーマ「尾駁の牧と陸奥国の支配者たち」(当会顧問：伊藤一允氏) 〔休憩 5分〕
13:40 ~ 14:40 (14:40~14:50)	6. パネルディスカッション (60分) ※内、質疑応答 15分 〔休憩 10分〕
14:50 ~ 15:20	7. エンディングアクト (30分) 舞楽「蘭陵王(らんりょうおう)」(競馬・勝負楽) 雅楽演奏「長慶子(ちょうげいし)」